尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日　令和５年１月31日
発行者　校長　大野　良子

No.379 ２月号

～動物とのふれ合い～

副校長　水野　美津子

私の席は、横を見ると様々な色でライトアップされた荒川遊園地の観覧車が見える特等席です。リニューアルされた荒川遊園地には、わかくさ学級、１，２年の子供たちも生活科などの学習で訪れています。ウサギ、モルモット、ヤギなどと実際にふれ合ったりえさをやったり、子供たちは大喜びでした。動物を前にするとどの子も優しい顔になります。

動物とふれ合うことで「感情が豊かになる」「心が安らぐ」「行動への意欲がわく」などの効果が得られるそうです。担任時代、学校を休みがちな子がいました。学校に来てしまえば元気で過ごせるのですが、朝、起きられずに何となく時間が過ぎ、休んでしまうという感じでした。しかし、飼育委員会でニワトリやウサギの世話をする日は、決して休まない、それどころか、放課後も遅くまで残って小屋の掃除をしていました。「自分がやらなくてはいけない。」という責任感や動物と過ごす癒しの時間が、登校への意欲につながったのだと思います。動物とのふれ合いについては、小学校学習指導要領の生活科の目標に「動物を飼ったり育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」とあります。学校では、鳥インフルエンザの発生や動物アレルギーなどで飼育活動が難しくなっていますが、近くに動物とふれ合う場所があるというのは、本当にありがたいことです。

さて、コロナ禍で３年間中止となっている行事の一つ、北海道広尾町の農山漁村ホームステイ。広尾町から、全校には給食用にししゃも・鮭・つぶ貝・牛肉や野菜を５年生にはハロウィン用かぼちゃを送っていただき、尾久西小の子供たちからは、お礼のお手紙を送り交流を続けていました。そして今年度は、広尾小学校の５年生とオンラインで交流をしています。尾久西小の５年生は、総合的な学習「おすすめ旅行プラン」で広尾町のことを調べたり、送っていただいたかぼちゃで作品を作ったりしました。（おすすめ旅行プランを作成しているうちに実際に広尾町に行って確かめてみたいと、この冬休みに広尾町を訪れた子供が２人いました。）先日の交流では広尾小学校の５年生が調べた「広尾町の漁業の現在」の発表を聞き、質問したり感想を述べたりしました。

来年度は、現在のところ、広尾町へのホームステイが再開する予定です。子供たちが都会の生活から離れ、広尾町の自然、牛や魚、人々の優しさとのふれ合いをぜひ体験させてあげたいと願っています。